

石州和紙の卒業証書



学校の紋章入り卒業証書

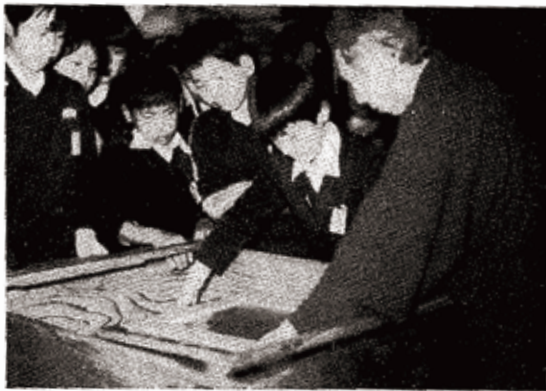
石州和紙会館のホワイトボードに、「卒業証書」という予約の文字を見つけた。もうそのようなシーズンかと思う。卒業を前に、小中学生たちが自分の卒業証書を漉きに來るのである。

いつ、どうしてこの生徒による卒業証書制作はスタートしたのであろうか？

卒業証書の制作を最初に始めたという石州和紙久保田の久保田彰さんにインタビューすることが出来た。昭和55年に、まず旧三保小学校の生徒が卒業証書を「ゆとりの時間」に制作したという。日本

海酒造の当時の社長さんが「子どもたちの卒業証書に石州和紙を使用したらどうだろうか？費用は私が持つ」という。これは全国で子どもたちが紙漉きをした最初の事例であったと久保田さんは語る。その当時から、近隣の小中学校の生徒は学入った石州和紙の卒業証書を漉くようになっていった。近年では卒業証書制作のため石州和紙の職

卒業証書は僕らの手作り



紙すきに挑む三保小六年の児童

三保小学校 紙すきに挑戦

さる二月四日、三保小学校の六年生(二十四人)が石州半紙の卒業証書作りに取り組みました。久保田さんの協力で、三年前から「ゆとりの時間」を利用して行っており、児童が漉(す)き上げた卒業証書には、町章のすかしが入るようにすげたに仕掛がしてあり、手作りの卒業証書をもろう日が待ち遠しそう。三上校長は「生涯に一枚しかない卒業証書。良い記念になります」と話していました。

広報みすみ(昭和57年3月12日発行)

自分の手で卒業証書を

三保小学校36人 紙すきに挑戦

自分の卒業証書は自分の手で、このほど、三保小学校の六年生(三十六人)は、石州半紙の卒業証書作り挑戦しました。久保田保一さん(門股)の作業場へやってきた児童たちは、石州半紙技術者会の皆さんから作業の説明を受けた後、児童一人ひとり「すき舟」の中に卒業証書の大きさにつくった「すげた」を入れ、



久保田彰さんの指導で紙すきに挑む児童



広報みすみ(昭和59年3月9日発行)

人さんが学校に出かけて学校で漉くこともある。また平成21年度からは、石州和紙製の卒業証書を全浜田市内の小中学校で使用しようという、浜田市の取り組みのもと、卒業証書の紙漉きに來ることのな

い小中学生たちも石州和紙の卒業証書が手元に届くようになった。石州半紙が国連教育科学文化機関(ユネスコ)の「無形文化遺産」リストに登録されたことを受け、地域の伝統文化を再認識し地域への愛着を培うため、市内

すべての小中学校において卒業証書に石州和紙を使用し始めた。

12月の半ばに卒業証書の紙漉きに訪れた三隅中学校3年の生徒たちは、「6年生の時を思い出す。」「高校を卒業するときも作りたいな。」「緊張します。」「1回目は失敗したけど、2回目で綺麗に出来たので良かったです。」「重いです。」「感想を述べていた。三隅中学校の舟木先生は、「みんなとても貴重な体験をさせてもらっていると思います。』と語っていた。

久保田彰さんの説明を一生懸命聞く三隅中学校の生徒たち



三隅中学校の教員 三隅 満面(みすみ) 満面(みすみ) 満面(みすみ) 満面(みすみ)

約40年継承される伝統的な事業はこれからも引き続き継続されていくに違いない。大切な子どもたちの思い出として末永く心の中にずっと残っていくだろう。